

3章 環境施設・設置場所選定の方法

環境施設（ごみ処理施設）設置場所の選定にあたっては、1）施設の地質的・地形的安定性と、施設周辺の生物・歴史・景観等を保護・保全する観点から、環境施設建設が不適当な地域を除外し、2）施設運用の経済的負担を軽減する意味で、ごみの生成地から処理地までの距離とごみの生成量を考慮し、環境施設（ごみ処理施設）までの搬送費が極端に大きくなる地域を除外した。さらに、既存施設周辺の住民との約定を考慮し、塩谷町南東部、喜連川町北西部（さくら市北部）、および高根沢町の北西部と北東部を第一段階の候補地域として選定した。また、設置される環境施設は単なる処理施設ではなく、地域住民が有効活用できる場所にすること（ポジティブ評価が高いこと）が必須であるとした。（平成15年度報告）

平成16年度は、施設が高根沢町に設置されるとの決定を受け、第一段階の候補地域であった高根沢町北西部および北東部を中心に候補地（第二段階の候補地）の絞り込みを行った。

環境施設候補地選定の方法

（1）自然環境条件からの接近

高根沢町北西部地域および北東部地域ともに平坦な田園地帯であり、ほぼ全域で圃場整備がされている。北西部地域は野元川および五行川、北東部地域は井沼川および五行川の水系に属するが両地域に大差はなく、地形・地質、景観にも特段の差異は認められない。植物・動物についても圃場整備による改変と均質化が進んでおり、自然環境条件からは更なる絞り込みを行うに足る差異は認められない。そのため、積極的に自然環境条件から特定の地区を候補地として絞り込むことは行っていない。

全体として整備が進み均質化しているとは言え、屋敷林はこの地域の特徴的景観であり、自然環境の多様性を保全するためにも数少ない平地林等には改変を加えずに済ませべきであろう。そこで、半径500m程度の範囲が耕作地（あるいは休耕作地）である地区を候補地になりうる場所として拾い出し、それを対象として他の条件等での検討を加えることにした。

更なる検討、即ち、施設（建造物）を造ることによる現況の破壊・変更の有無や程度、施設の運用に伴う環境負荷の変化等についての検討は、いくつかの地区が候補地として挙げられ、施設規模や付帯施設等の計画の概要がある程度定まった段階で、地区ごとに生じる若干の差に留意した吟味と共に行われることとなる。それに対応するため、調査項目や留意点について検討を行うとともに現況の記録を行っている。

（2）経済・社会・政策的条件からの接近・・・ポジティブ評価

ポジティブ評価では（1）で抽出した2つの地域に加え、公共施設など関連施設の集積がみられる南西部地域についても評価を行うこととした。平成15年度に提案したポジティブ評価の項目中、町内候補地の絞りこみに関連する項目をピックアップし、

評価の視点をもとに整理を行ったのが下表である。

表 町内候補地についてのポジティブ評価

評価項目	評価の視点	北西部地域	北東部地域	南西部地域
監視システム構築の可能性	主として政策上または、システム上での課題となるが、生活圏(住宅密集地など)から目に見える場所に立地することで、「監視」という行為に関心が高まる可能性はある。	人口集積地からはやや離れている。	仁井田地区に近接。近接する土づくりセンターと地元間で「公害防止に関する協定」が取り交わされている。	宝積寺など町の中心市街地に近接。
エネルギーの再利用	余熱が有効に利用される条件はその可能性・ニーズを満たす関連施設等が近接すること。また新たに還元施設が整備される場合その施設利用の便がよいことや人口集積地に近いことなどが条件として挙げられる。	菅又病院、阿久津医院に近接。	深沢クリニック、土づくりセンター、ピレッジセンターに近接。	町民広場(保健センター・福祉センター・トレーニングセンター・町民ホール・改善センター)に近接。
教育上の活用	環境教育など、学校教育・生涯教育・環境啓発の場としての活用可能性・ニーズを満たす既存施設としては学校、公民館などの公共施設、が考えられる。	学校などは近接しない。	北小(176名) 東小(185名) 北高根沢中(327名) ひまわり保育園(118名)にじいる保育園(96名)に近接。	中央小(238名)
人口集積	上記のような施設は地域の日常的な施設であることから、周辺人口の集積度により利用者数が左右される。	人口集積地からはやや離れている。	仁井田地区に近接。	宝積寺など町の中心市街地に近接。
最終発生物の地域における活用の可能性	循環型社会形成においては、地域内で発生したゴミもしくはゴミ処理施設に伴う発生物を地域内で適正に処理・活用できる可能性のある施設が近接する場合は有利である。	特になし	土づくりセンターとの連携の可能性	特になし
地域の産業・研究開発との連携可能性	処理施設と連携しながら新たな環境関連産業を誘発していけるような地元産業・研究開発機能が近接する場合は有利である。	特になし	特になし	特になし
地域資源活用の可能性	既存の地域資源(遊休地など)を活用することで、地域の経済活性化に資するような仕組みができる可能性があるか。	特になし	特になし	特になし
既存プロジェクト等との関連性	既定のプロジェクト等との関連性が高いかどうかについて見極める必要がある。	特になし	特になし	特になし

このスケールレベルにおける比較では、主に周辺地区の人口集積や関連施設の分布状況がポイントとなるが、結果としては、仁井田地区に近接する北東部地域にややそれらの集積が多くみられるようである。ただし、ポジティブ評価の考え方自体はあくまで可能性のレベルであり、実際に住民がポジティブな評価をするかどうかは、さらに各関連施設と環境施設連携の実現性や、地域ごとの住民意識の差異など細かくみていく必要があると考えられる。

(3) 候補地絞込みの視点

自然環境条件や経済・社会・政策的条件において、特段の優位性を持つ地区がないことから、以下に候補地絞込みの視点を示す。

- ・ 塩谷圏域市町からの交通アクセスの利便性
- ・ 平坦地
- ・ 給排水の利便性
- ・ 既存施設（環境施設・工業団地・市民利用施設）との連携の可能性
- ・ 環境教育の場としての活用の可能性
- ・ 監視システム構築の可能性
- ・ 付帯施設の有効利活用の可能性

また、上記のほか、既知の希少動植物・文化財等の有無及び土地取得の難易性なども考慮に入れなければならない。

なお、住民との合意形成を円滑に進めるため、住民参加の検討組織を立ち上げ、絞込みを行っていく必要がある。